



# Michigan Newsletter

January 2026

No.16

ミシガン州経済交流駐在員

## 経済交流

1. ミシガン抹茶ラテはいかが？

ページ 1～2

## 文化交流

1. デトロイト公共図書館での信楽焼交流展に向けたミーティングを実施

ページ 2～3

## ミシガントピック

1. デトロイト・オートショーでの重大発表
2. ミシガン州にもやってきた寒波と大雪

ページ 3～4

## 経済交流

### 1. ミシガン抹茶ラテはいかが？

個性的なレストランやショップが並ぶランシング市の旧市街地に、お茶の専門店が昨年オープンし、毎週のように企画されるイベントや、本格的な中国茶で話題になっています。このお店の経営者であるリボンズ氏とランシング市姉妹都市委員会の会合で出会い、リボンズ氏は中国に 20 年ほどの滞在歴があり、滋賀県にも訪問されたことがあるとのことで、意気投合。滋賀県の抹茶とミシガンのチェリーシロップをブレンドしたお茶を作ってみることになりました。



ミシガン抹茶ラテを手にするランシング市長(右)

1月3日に開催された、新年を祝う、少人数のテイスティング会には、ランシング姉妹都市委員会のメンバーや、アンディ・ショアランシング市長も駆けつけ、「ミシガン抹茶ラテ」を楽しみました。

ちなみに、ランシング市長は、昨年 11 月に、住宅不足や銃問題の改善、経済発展、道路整備に取り組むことを公約に掲げて再選され、3 期目に入られたところです。過去に友好親善使節団に参加し滋賀県を訪れたこともあり、抹茶もお気に入りと言ってくださいました。



「ミシガン抹茶ラテ」は、抹茶の苦みがスチームミルクでまろやかに、最後にぐっとミシガンチェリーシロップの味が広がります。メニューになるかは未定ですが、地域密着型のお茶専門店、滋賀県とのつながりを知っていたく良い機会になりました。



参加者にお茶が振舞われる様子

## 文化交流

### 1. デトロイト公共図書館での信楽焼交流展に向けたミーティングを実施

過去にはグランドラピッズ市のフレデリック・マイヤー・ガーデンズ・アンド・スカルプチャー・パークやミシガン大学美術館で信楽焼展が行われたことがありますが、今回は、毎年米国で開催されているNCECA(全米陶芸教育協議会)のカンファレンスがデトロイトで開催されるのを機に、信楽焼交流展をミシガン滋賀姉妹県州委員会とともに企画しています。



図書館の外観

陶芸分野で世界最大規模といわれるこのカンファレンスは今年で 60 回目を迎えます。第 2 回が 1967 年にミシガン州立大学で開かれて以来、ミシガン州にやってくるのは 59 年ぶりだそうです。開催期間の 3 月 25 日～28 日は、メイン会場となるハンティントンプレイスはもちろん、デトロイト市内外で関連した展示会が 100 近く開かれ、街全体が陶芸で活気づくことが予想されます。



レセプションを実施予定のホール

街がにぎわうこの期間中に、デトロイト公共図書館の本館ギャラリーで実施するこの交流展では、信楽の作家や、信楽の作陶手法に影響を受けた日米のアーティストの作品を展示する予定です。信楽の土が持つ素朴な力強さは、多くのアメリカ人陶芸家の心を捉えてきました。出展いただくアーティストの皆さんはミシガン州だけでなく、アメリカの他 6 州に散らばっていることから、事前に概要を説明し、顔を合わせる場を作ろうとオンラインミーティングを実施しました。

私からは、この展示会のコンセプトや協賛団体、当日の作品の搬入搬出などの情報を中心に説明。アーティストとのやり取りの中で、作品を展示する展示台の調達や、美術品に掛ける保険の提供ができるかなど、今後の課題も明らかになりました。初めての顔合わせで緊張しましたが、皆さん日本に、信楽に敬意を持っておられ、実際に信楽に滞在して作陶された経験を持つ方も多く、今回の交流展の趣旨も理解いただき、とてもうれしい時間になりました。

世界中から陶芸家、陶芸を学ぶ学生、陶芸愛好家達がミシガン州に集結するこの機会に、ミシガン州の姉妹県である滋賀県の信楽焼をより多くの方に知ってもらおうとともに、様々な人が出会い交流する場を作ることで、これからの陶芸を通じた日米の交流につながっていけばと考えています。

## ミシガントピック

### 1 デトロイト・オートショーでの重大発表

1月14日～25日にデトロイト・オートショー(北米国際自動車ショー、NAIAS)がミシガン州デトロイトで開催されました。世界5大モーターショーの1つで、1907年から続く歴史あるイベントで、今年も国内外の自動車メーカーが最新モデルや技術を披露されました。

15日には、ホイットマー州知事がスピーチをされ、その後オートショーの視察をされました。今回、デトロイト総領事館とデトロイト日本商工会が、日本企業の認知向上のための顧客との交流の場、Japan Plaza を設置され、ホイットマー州知事も訪問、滋賀県が提供したお茶もふるまわれました。

オートショーの始まる前日、トランプ大統領はミシガン州を訪問し自動車大手フォード・モーターの工場を視察していました。複数のメディアによると、ホイットマー州知事は15日のスピーチにて、連邦政府による関税と歳出削減により、ミシガン州の製造業は中国の自動車産業との競争において不利な立場に置かれていると主張、米国は近隣諸国との協力をさらに強化する必要があると述べたそうです。さらに、サプライチェーンの国内化というトランプ大統領の目標には賛同するものの、関税には戦略性が欠けている、2025年どころか2050年にも、アメリカの自動車産業は孤立した状態では存在できず、敵対国と競争するためには友好国と協力する必要がある、という言葉もありました。

州政府公式ウェブサイトによると、このオートショーの場で、ホイットマー州知事は州初となる「ミシガン州経済移行戦略」を発表しました。これは、政府、産業界、労働、そして地域社会全体の取り組みを連携させるもので、過去1年半にわたって幅広い関係者からの意見を聞き策定されました。産業の成長、地域社会の適応能力の強化、労働者の能力向上の3つに焦点を当てて、企業、地域社会、そして労働者と協力することで、経済を成長させ、未来の世代が繁栄できるミシガン州を築くことを目標としており、今後も注視していきたいと思えます。

### 2 ミシガン州にもやってきた寒波と積雪

ちょうど近畿地方が大雪に見舞われたころ、ミシガン州にも寒波が訪れました。特に1月23日の最高気温はマイナス14℃。凍傷や低体温症を避けるため30分以上屋外に出ないようにと言った注意喚起もあり、イーストラッシング市内の公立学校も休校になりました。

この強い冬型の低気圧は、アメリカの広範囲に影響を及ぼし、トランプ大統領は25日、南部のサウスカロライナ州やバージニア州をはじめ、東部のメリーランド州や、中西部のインディアナ州などあわせて12州に緊急事

態宣言を發表しました。ミシガン州は含まれておらず、幸い大きな影響はなかったものの、吹雪で視界の悪い日が数日続きました。

年によっても違うようですが、積雪はミシガン州で危険な道路状況、停電、経済活動の混乱など、地域社会に深刻な影響を及ぼします。この積雪は温暖化が一つの原因であると言われています。

ミシガン州の皆さんがよく口にするのが、「レイクエフェクト(湖水効果)」。冷たい空気が五大湖の上空に流れ込んだ時に、湖から出る水蒸気によって雲が発達し、風下の地域に雪を降らせる現象で、日本海側で雪が降るのと似ています。小さい湖では氷の上で TENT を張って釣りをしている人も良く見かけるので実感はないのですが、五大湖の氷結面積は年々減少傾向にあることはよく知られています。五大湖の湖水温度が冬の後半まで高い状態が続き、湖の氷結面積が減少すると、湖水効果により雪が強まります。

このメカニズムで、今世紀半ばにかけて降雪量が増加すると予想されていますが、温暖化傾向が続くと、雪が降るには暖かすぎるようになり、長期的には雪でなく雨が増加するという予測もあります。これが事実であれば、今世紀後半には、大雪の時代が終わる可能性があります。

私の周りのミシガン州民の皆さんは、この雪の降る厳しい冬があることを好意的に思っている人たちがとても多いです。アメリカには四季のない州も多い中、ミシガンの四季は鮮明で、生活にメリハリが付き、楽しみが広がる、家や街の雪景色が好き、といった声も。長い冬が終わって鳥の声が聞こえ始め、春が来たときの喜びは何にも変えがたいです。長期的に、冬の雪が減り雨が増えるというのは、温暖化の影響が地域社会に与える不安とともに、州民が愛する冬の様相が変わっていくという悲しさも感じます。

冬に定番のどんよりとした空。太陽の出る時間が少なくこの時期体調を崩す人も多いそうです。



車のフロントガラスの内側が氷った様子。もちろん車内のペットボトルの水も氷ります。

